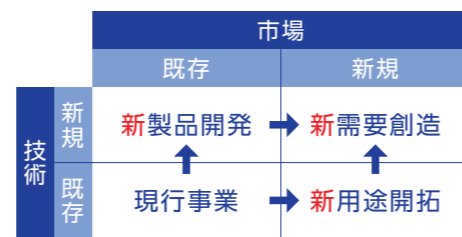


# Nittoグループのユニークさ

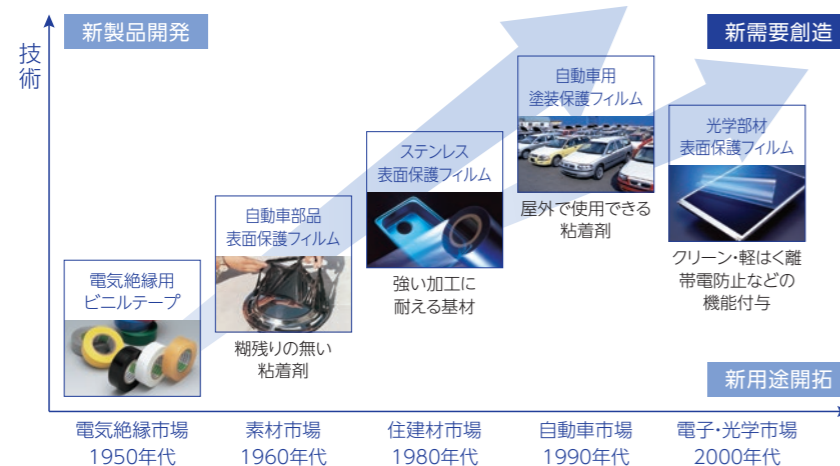
## 三新活動

新用途開拓と新製品開発に取り組むことで新しい需要を創造する  
Nitto独自のマーケティング活動「三新活動」

既存製品の「新」しい用途を開拓して、そこに新たな技術を加える。  
もしくは新しい技術を用いて「新」製品を開発したうえでその用途を広げる。  
こうして「新」しい需要を創出する。  
—3つの「新」を重ねて進化し続けることが、50年以上にわたって繰り返されてきたNitto独自のマーケティング活動「三新活動」の原理です。



### 三新活動の展開例



電気絶縁の用途に使われていたビニルテープという既存製品から、さまざまな新技術・新機能の開発と、新用途の開拓を繰り返し、電線メーカーから住宅、自動車といった新たな顧客・業界における需要を創造してきました。このように、顧客に密着し、技・製・販が一体となって三新活動を推進することが、Nittoの「イノベーションのDNA」であり、成長エンジンのひとつです。

## コア・テクノロジー

4つの基幹技術を組み合わせ  
お客様のニーズに合った製品を開発

Nittoグループのコア・テクノロジーは、創業以来培われてきた高分子合成技術と加工技術、そこから生み出された粘着、塗工、高分子機能制御、高分子分析・評価技術であり、これらを複合・発展させ、自動車・他輸送機器、住宅・住宅設備、社会インフラ、素材、家電・電子機器、ディスプレイ、電子デバイス、医療、包装材料、消費財などの幅広い事業領域へと展開してきました。



## ニッチトップ戦略

自社に優位性があるニッチ市場で  
独自の技術でトップシェアを目指す

成長(変化)するマーケットにおいて、グループ固有の技術を活かすことができ、かつ優位性を発揮できるニッチな分野へ経営資源を投下する、独自の集中・差別化戦略がニッチトップ戦略です。  
グローバルシェアNo.1を目指すのがグローバルニッチトップ™戦略、各国・エリアの市場において、特有のニーズに応じた製品を投入してトップシェアを狙うのがエリアニッチトップ®戦略です。



### グローバルニッチトップ™戦略の製品例

- ディスプレイ用偏光フィルム (NPF®)**

透明性・信頼性・作業性に優れ、透過型・反射型・半透過型などの各種ディスプレイに対応する豊富な品ぞろえでお客様のニーズにお応えしています。
- 熱はく離シート (リバアルファ®)**

常温では粘着力があり、加熱するだけで簡単にはがすことができるユニークな粘着シートです。電子部品の各種製造工程で自動化・省人化に大きく貢献しています。
- HDDヘッド用薄膜金属回路基板 (CISFLEX®)**

Nittoで開発された感光性ポリイミド技術をベースに、技術を複合させることで開発されました。微妙なバネ特性によって磁気ディスク上に磁気ヘッドを浮上させ、HDDに情報を読み書きさせる信号を伝送する重要な役割を担っています。

## 企業文化

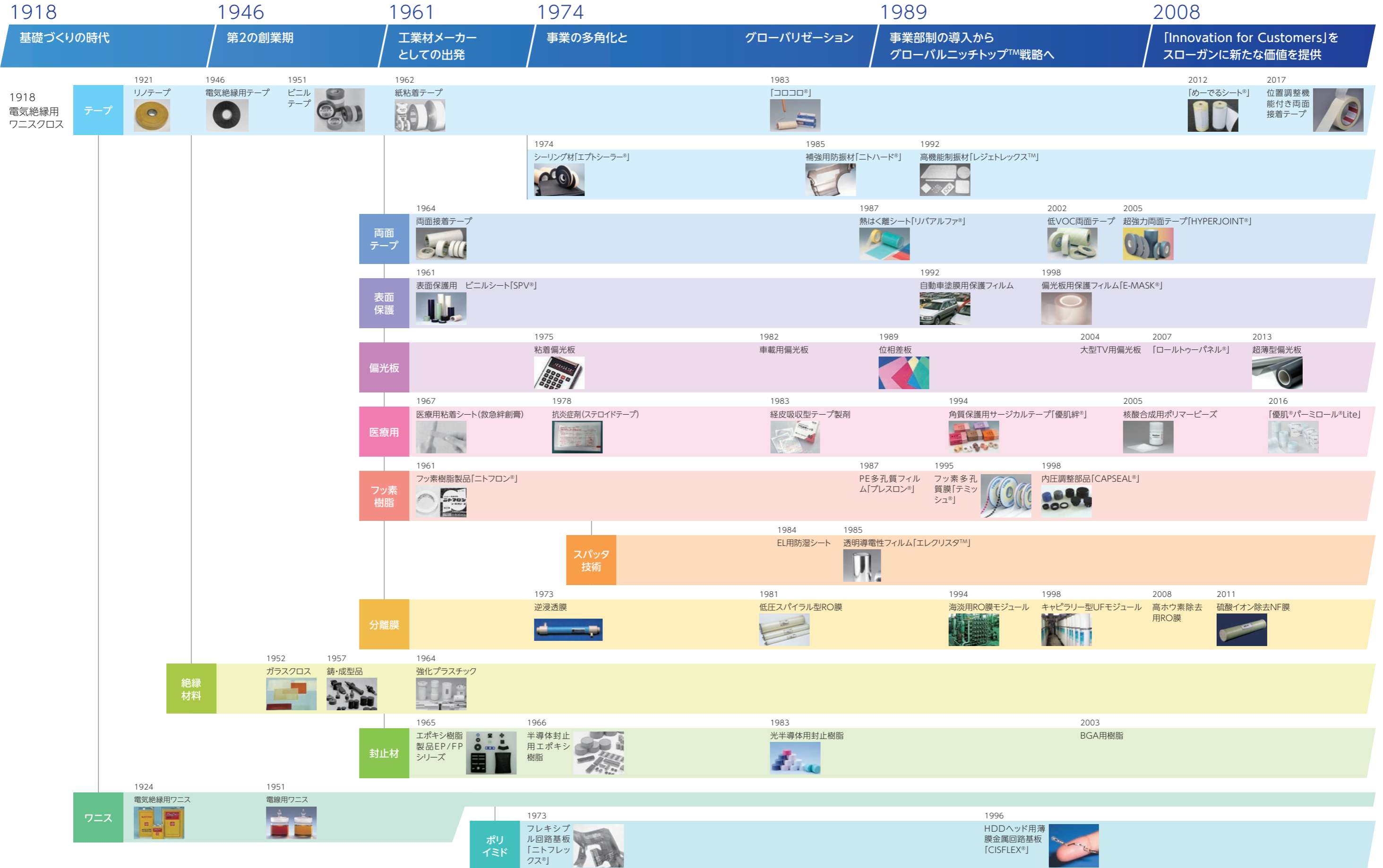
価値観、心構え、行動基準を明文化した  
「The Nitto Way」

Nittoグループを支えてきた諸先輩の想い・知恵・価値観は、長い歴史の中で積み重ねられ、私たちの中でDNAとなって脈々と受け継がれています。  
それを明文化したものが「The Nitto Way」です。  
私たちの判断基準であり、心の拠り所となっています。



# 技術革新の歴史

Nittoグループは100年の歴史において、技術の複合により数多の製品を創り出し、時代の変化に臆することなく、培った技術や製品を応用してさまざまな分野に事業を展開してきました。



# Nittoグループの歩み

経営理念「新しい発想でお客様の価値創造に貢献します」のもと、社会の変化をチャンスと捉え、驚きと感動を次々と生み出してきました。

絶縁材料の製造から始まったNittoグループ。お客様とともに歩み続け、基幹技術である粘着技術や塗工技術をベースに、エレクトロニクス業界や、自動車、住宅、インフラ、環境および医療関連などの領域において、さまざまな製品を提供することで成長してきました。

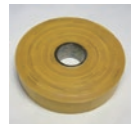
今、世界は新たな時代に向けて、社会課題がますます多様化・複雑化し、これまでにない速さで変化しています。このような中、Nittoグループは、社会課題解決と企業価値の向上を両立し、人々のより快適な暮らしを実現していくことに挑戦し、世の中にとって必要とされる存在であり続けたいと考えています。

## 1918-1945

### 基礎づくりの時代

～東京大崎での絶縁事業基盤づくり～

1918年10月25日、「日東電気工業株式会社」を東京大崎に設立。時代の発展を支えるインフラとして、急速に普及していったのが電気でした。そして、電気設備や電気機械などに利用される電気絶縁材料について、国産化が急務である中、日東電気工業は、その一翼を担うために誕生しました。



リノテープ



電気絶縁用ワニス

## 1946-1960

### 第2の創業期

～戦後大阪茨木での再スタート～

東京大崎工場を戦災で焼失したものの、戦後大阪の茨木で再スタート。1956年、社は「一品一巻日東の総力、顧客奉仕に貫く日東」を制定。この考え方は今のブランドスローガン「Innovation for Customers」に連綿と引き継がれています。また、1957年には、現在まで続くNitto独自のマーケティング手法である「三新活動」がスタートしました。



ビニルテープ



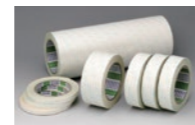
マクセル乾電池

## 1961-1973

### 工業材メーカーとしての出発

～マクセル分離から～

1961年、消費財部門マクセルを分離し、工業材メーカーとしてさらなる飛躍を目指しました。1962年、国内の粘着テープ主力工場となる豊橋工場操業開始、1967年、関東工場操業開始と、製造拠点を増強。さらに、1968年日東電工アメリカ設立、1969年台湾日東電工設立(初の海外生産)と、海外にも進出しました。



両面接着テープ



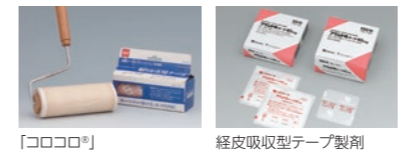
フッ素樹脂テープ「ニトフロン」

## 1974-1988

### 事業の多角化とグローバル化

～医療、エレクトロニクスなどの分野へ進出、海外展開やM&A加速～

1973年のオイルショックによる影響を受け、いかなる景気変動にも耐えうる強固な企業体質を目指して多角化を推進。エレクトロニクス分野に加え、医療分野や膜事業分野に参入し、さまざまな製品を誕生させました。1974年、日東ベルギーを設立。1987年、膜事業の世界的な展開を図るため、米国・ハイドロノーティクス社を買収しました。創立70周年となる1988年、社名を日東電気工業株式会社から、日東電工株式会社に変更しました。



「コロコロ」



経皮吸収型テープ製剤

## 1989-2007

### 事業部制の導入からグローバルニッチトップ™戦略へ

～継続的な成長を実現する経営基盤の確立～

1989年、事業部制を導入。顧客奉仕の原点に戻り、ダイナミックな市場変化へのスピーディーな対応を図りました。1996年には、成長するマーケットを見極めて、Nittoが優位性を発揮できるニッチな分野に経営資源を投下しトップシェアを狙うグローバルニッチトップ™戦略もスタートしました。また、製品だけではなく、新しいビジネスモデル「ロールトゥーパネル®」※1を開発。生産性アップ、梱包資材の低減、偏光板歩留りアップ、省人化などお客様に新しい価値を提供しています。

※1 偏光板の原反をお客様の工程内にそのまま持ち込みそこで切断、検査、ガラスの貼り合わせまでを一貫で行うビジネスモデル。



「リバアルファ」

「デミッシュ」

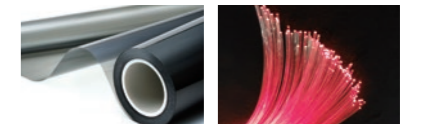
## 2008-

### 「Innovation for Customers」をスローガンに新たな価値を提供

～快適な暮らしを支える会社としてのさらなる変革～

2008年に起きたリーマンショックは、われわれにも大きな影を落としました。ビジネス環境変化への素早い対応、「無・減・代」※2と「車座」という独自の手法を駆使し、即座に回復し、その後大きく業績を伸ばしました。2013年、「日東電工」を「Nitto」と表記し、現在の企業ロゴに変更、2014年にはブランドスローガン「Innovation for Customers」制定。2018年、Nittoは創立100周年を迎えました。

※2 「無(む)・減(げん)・代(だい)」と称する「無くす」「減らす」「代える」の3つの視点からなるコスト構造の抜本的な改革を軸とした成長プラン。



超薄型偏光板

プラスチック光ケーブル

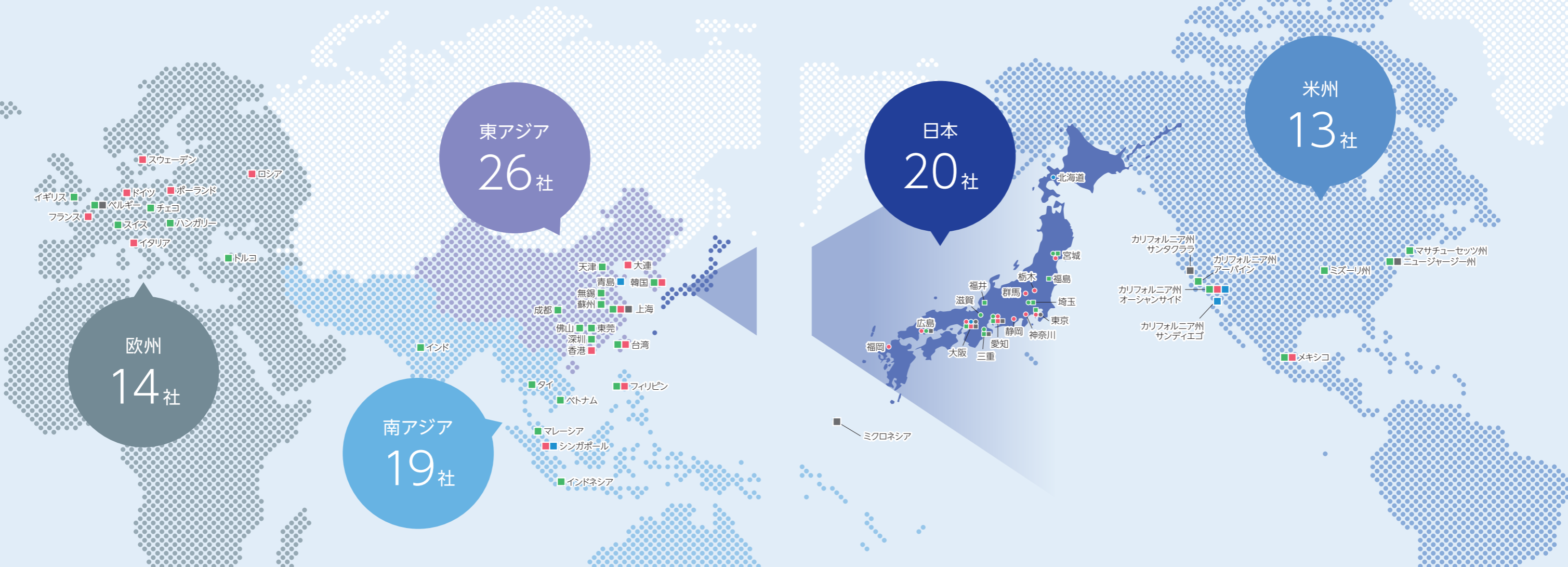
### 売上高※3推移



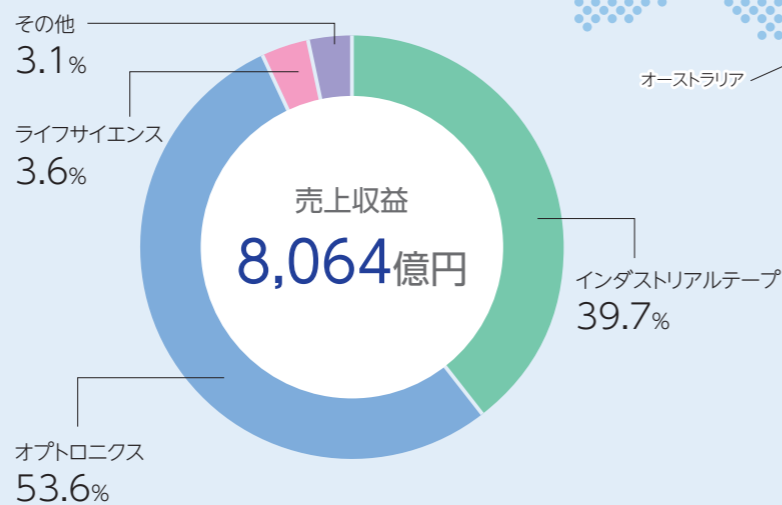
※3 2014年度より国際会計基準(IFRS)を導入したため、それ以降は「売上収益」を示しています。

# Nittoグループの今

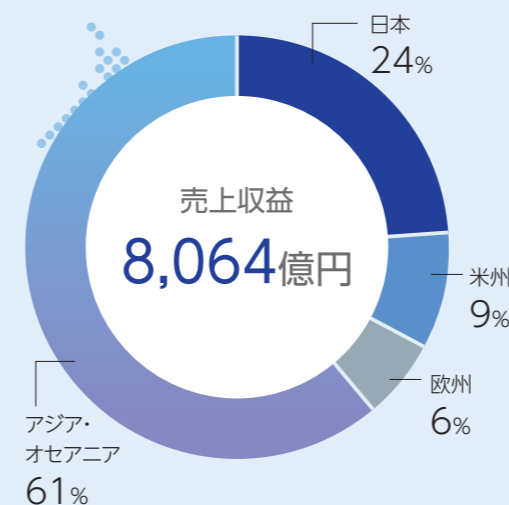
Nittoグループは、時代に先んじてニーズを捉え、イノベーションを通じて、新しい価値を創造し、事業を拡大してきました。現在では、世界28の国と地域で、グローバルに事業を展開しています。



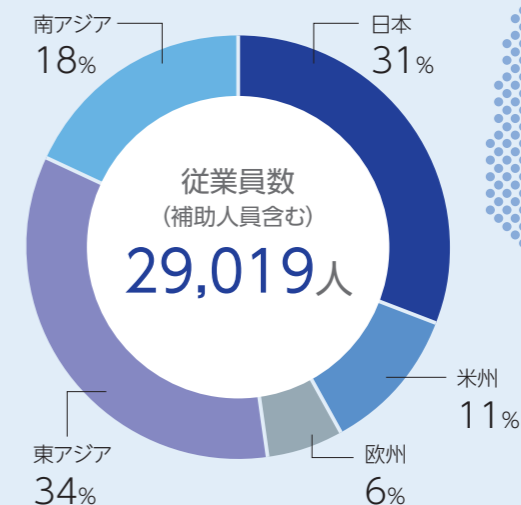
セグメント別売上収益



エリア別売上収益



エリア別従業員比率

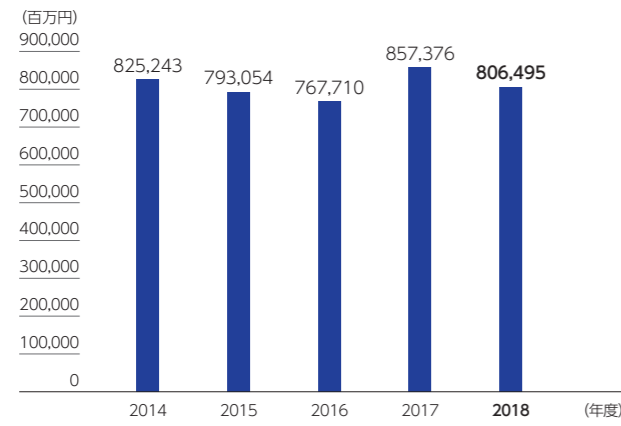


- |         |         |
|---------|---------|
| Nitto   | グループ会社  |
| ● 製造/加工 | ■ 製造/加工 |
| ● 販売のみ  | ■ 販売のみ  |
| ● 研究開発  | ■ 研究開発  |
| ● その他   | ■ その他   |

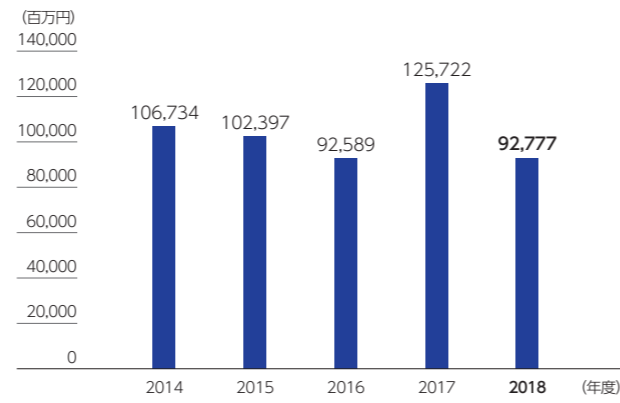
Nittoグループ 92社\*  
(2019年3月31日現在)  
\*清算中を含む重要性の低い8社は除く

# 財務・非財務ハイライト

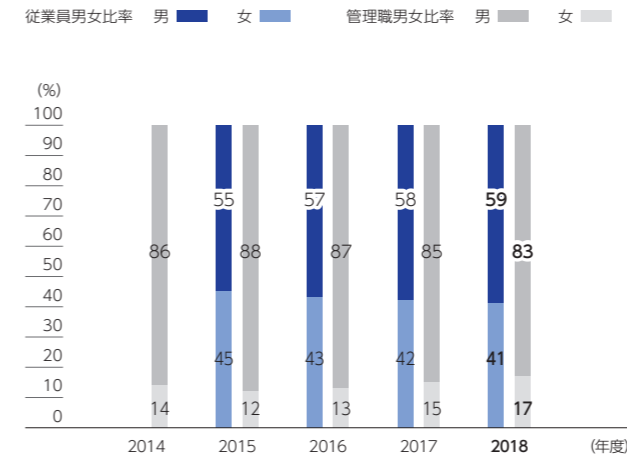
## 売上収益



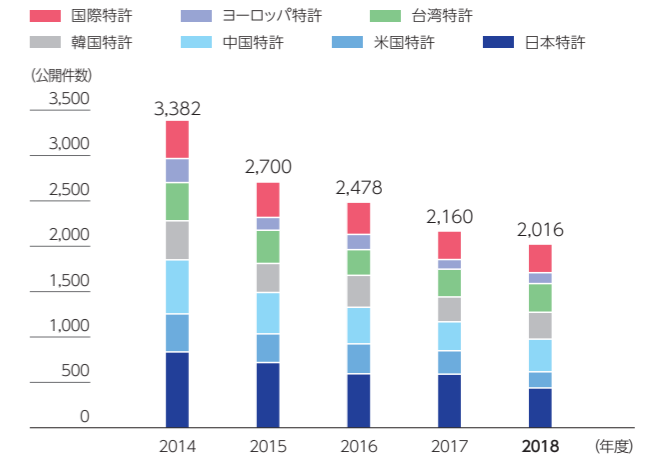
## 営業利益



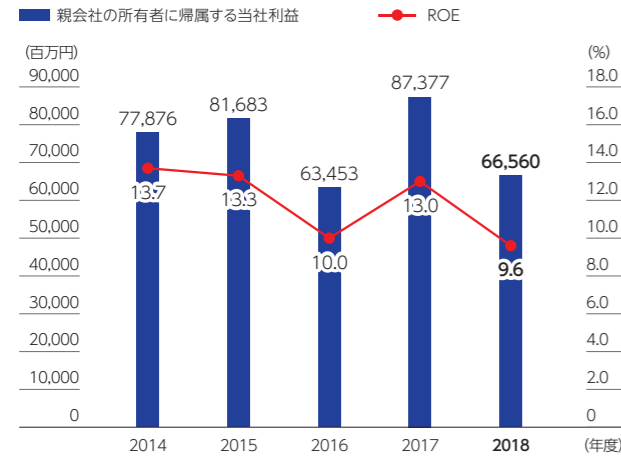
## 従業員、管理職男女比率



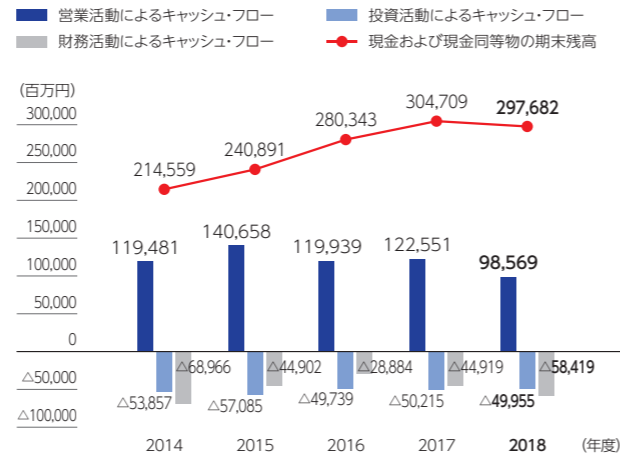
## 特許公開件数



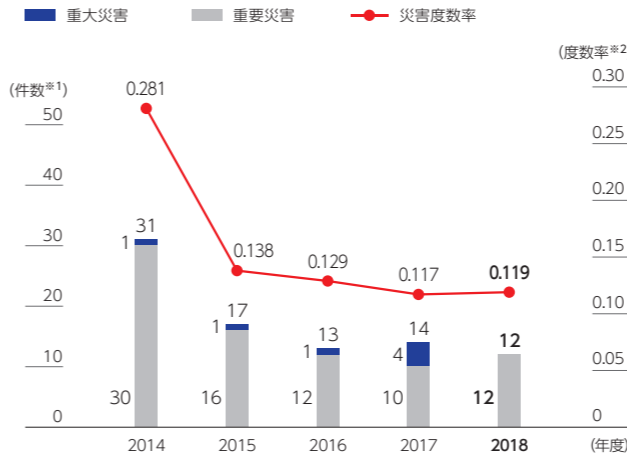
## 親会社の所有者に帰属する当社利益/ROE



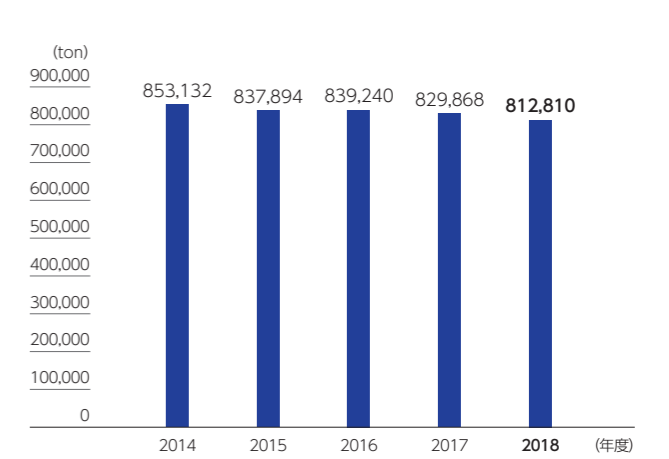
## キャッシュフロー



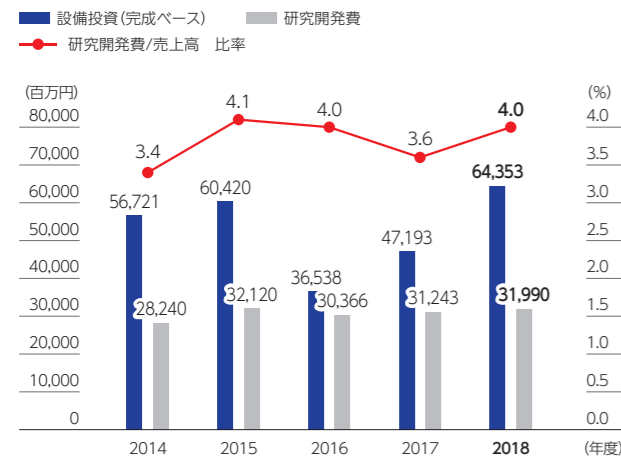
## 重大・重要災害発生件数



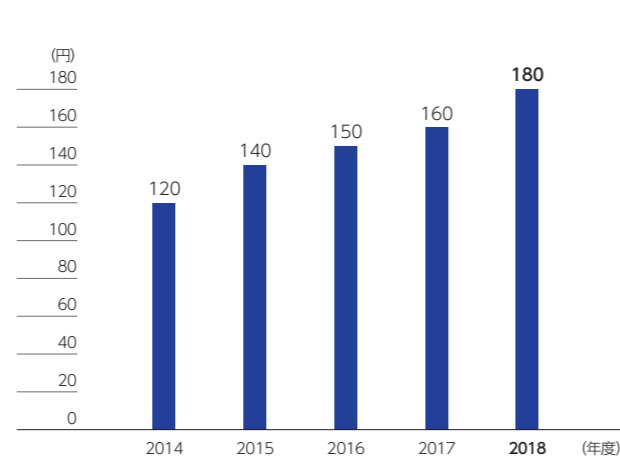
## CO<sub>2</sub>排出量 (Scope 1+2)



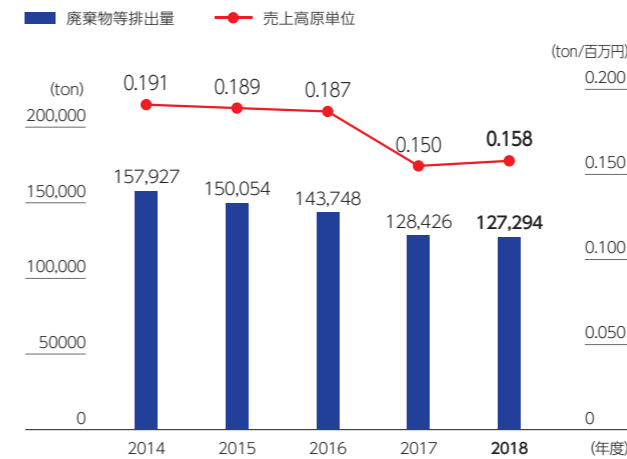
## 設備投資と研究開発費



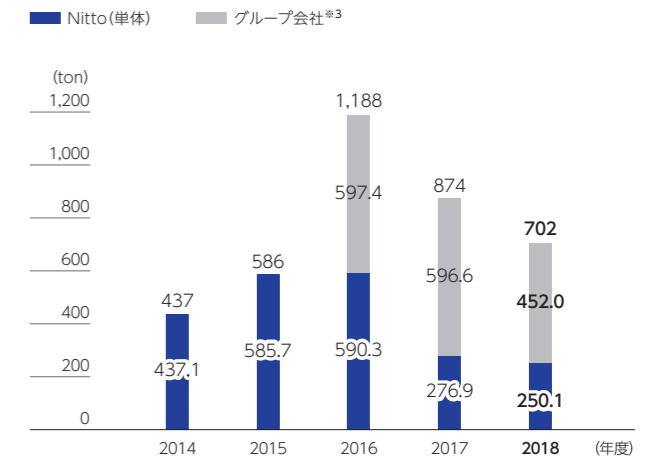
## 一株当たり配当金



## 廃棄物等排出量



## トルエン大気排出量



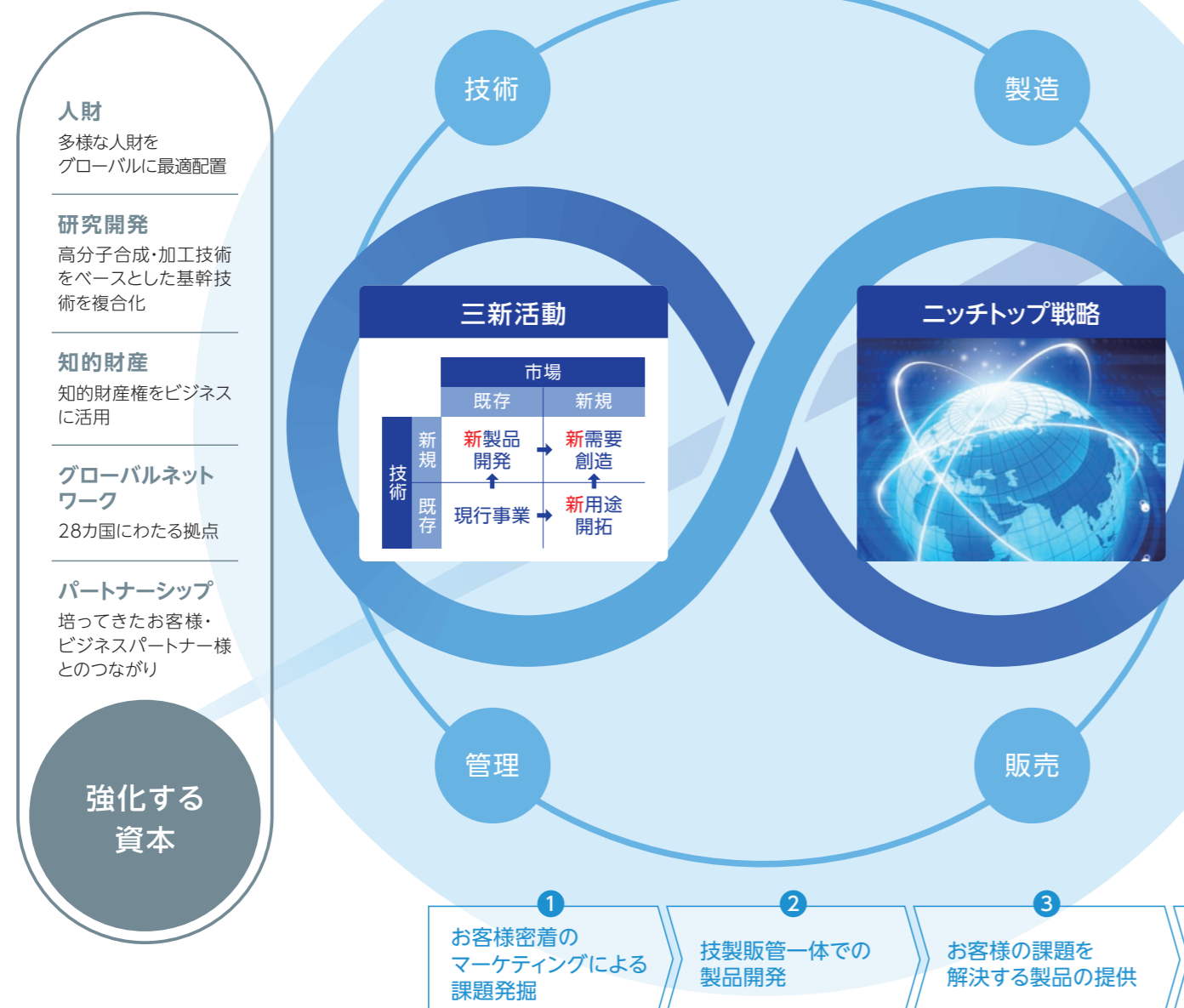
※3 グループ会社は、2016年度より集計をしています。

# 価値創造プロセス

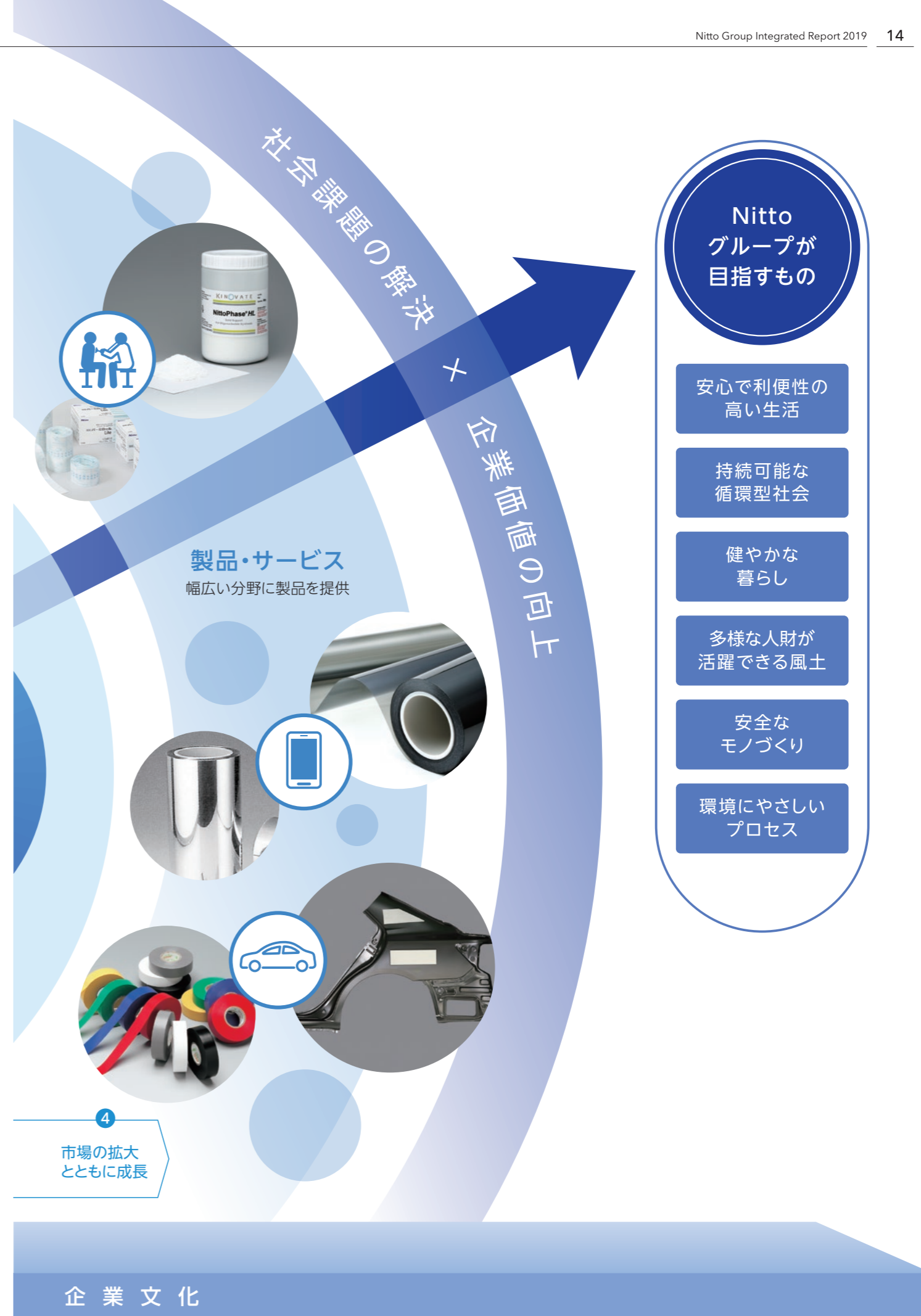
社会におけるさまざまな問題をお客様とともにどのように解決するか。Nittoグループは「三新活動」と「ニッチトップ戦略」という独自のビジネスモデルによって、常に革新的で幅広い価値を創造し続けていきます。



## ビジネスモデル



経営理念



企業文化